

# 三井住友DS グローバル・ ターゲット戦略債券ファンド 2022-03 (限定追加型)

追加型投信／内外／債券

日経新聞掲載名：Sグ債券2203

2022年3月2日から2023年3月8日まで

第 **1** 期 決算日：2023年3月8日



## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは主として世界各国・地域の米ドル建ておよびユーロ建ての債券(投資適格未満を含む)に投資し、信託財産の着実な成長と安定的なインカム収入の確保を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

## 当期の状況

基準価額(期末)	9,948円
純資産総額(期末)	65,969百万円
騰落率(当期)	-0.5%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

### ■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

### ■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年3月2日から2023年3月8日まで)

## 基準価額等の推移



設定日	10,000円
期末	9,948円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-0.5% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因(2022年3月2日から2023年3月8日まで)

当ファンドは、主として世界(日本を含む)の米ドル建ておよびユーロ建ての投資適格未満を含めた債券に投資しました。外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

#### 上昇要因

- 社債の金利収入

#### 下落要因

- 社債利回りの上昇(価格は下落)
- 為替のヘッジコスト

## 1万口当たりの費用明細(2022年3月2日から2023年3月8日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
<b>(a) 信託報酬</b>	<b>74円</b>	<b>0.757%</b>	<b>信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数)</b> <b>期中の平均基準価額は9,825円です。</b>
(投信会社)	(28)	(0.280)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(44)	(0.448)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.028)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
<b>(b) 売買委託手数料</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数</b> 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
<b>(c) 有価証券取引税</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数</b> 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
<b>(d) その他費用</b>	<b>2</b>	<b>0.022</b>	<b>その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数</b>
(保管費用)	(1)	(0.007)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(1)	(0.010)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
<b>合計</b>	<b>77</b>	<b>0.779</b>	

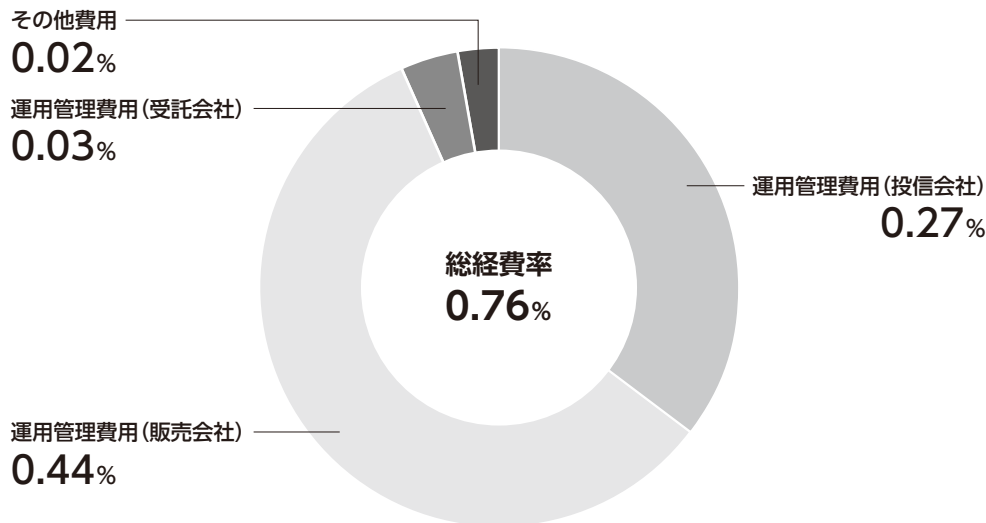
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

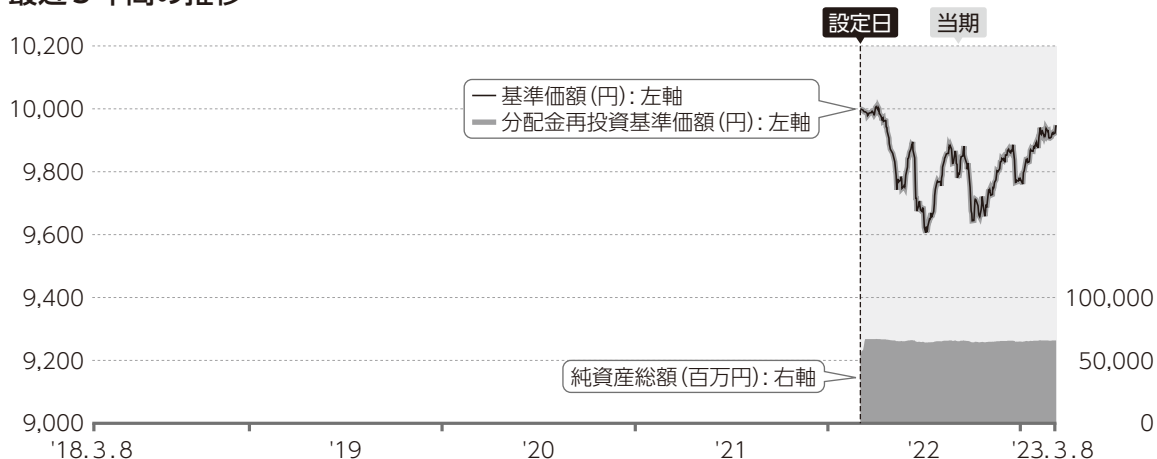
※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は0.76%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年3月8日から2023年3月8日まで)

当ファンドは、ファンド設定後5年間を経過していないため、設定日(2022年3月2日)以降の情報を記載しています。

最近5年間の推移



		2022.3.2 設定日	2023.3.8 決算日
基準価額	(円)	10,000	9,948
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-0.5
純資産総額	(百万円)	55,740	65,969

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について（２０２２年３月２日から２０２３年３月８日まで）

**米国、ユーロ圏では、金利は上昇基調となりました。**

米国、ユーロ圏では、インフレ加速が懸念される中、ＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）やＥＣＢ（欧州中央銀行）がインフレ抑制姿勢を鮮明にして金融引き締めを進めたことなどを背景に、金利は上昇基調となりました。期中、インフレのピークアウト観測の高まりや景気後退懸念の強まりなどを背景に金利が低下する局面も見られましたが、期末にかけては、景気の底堅さやインフレ

圧力の根強さが示されたことなどから金利上昇が進みました。

社債市場では、期の前半は金融引き締めが景気減速懸念を強めスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しましたが、期の後半はインフレのピークアウトや金融引き締めペースの鈍化が意識されスプレッドは縮小しました。

ポートフォリオについて（２０２２年３月２日から２０２３年３月８日まで）

●**デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）**  
ポートフォリオのデュレーションは２年程度としています。

●**種別配分**  
業種別には消費、金融、製造業、通信などに分散してポートフォリオ構築していません。

●**格付け別配分**  
ＢＢＢ格の組入比率を高めとしています。投資適格債券に加え、投資適格未満の債券にも投資を行いました。

●**為替ヘッジ**  
外貨建資産については、対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図りました。

## ベンチマークとの差異について(2022年3月2日から2023年3月8日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 分配金について(2022年3月2日から2023年3月8日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第1期
当期分配金 (対基準価額比率)	0 (0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	280

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。  
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。



## 2 今後の運用方針

米国では、底堅い労働市場や粘着性のインフレを背景に、ＦＲＢの利上げ姿勢が継続中です。しかし、先行きのインフレは徐々に鈍化に向かい、利上げの累積効果による景気減速が進むことが想定されることから、長期金利は緩やかにレンジを切り下げていく展開を予想します。

ユーロ圏では、インフレが高止まりする中、ＥＣＢのタカ派（インフレ抑制を重視する立場）姿勢が継続するもののＦＲＢの利上げペース減速などを受け、グローバルに中銀のタカ派姿勢が緩むことで、金利の上昇余地は限定的となる見通しです。

米国社債市場は、ＦＲＢの金融引き締めの影響が一部で現れ始め、当面は市場の振れ幅が大きくなると想定されますが、インフレのピークが徐々に市場に織り込まれる

と予想します。

社債の発行体は利上げによる景気減速を見据え業績見通しに反映させながら経営戦略を調整することによりやがて社債スプレッドは安定的な推移へ落ち着くものと分析しています。

以上の投資環境見通しをベースに、原則として当ファンドの償還日前に満期を迎える債券に投資し、満期まで保有する「持ち切り運用」を行うことで、当ファンドの償還時における債券価格の変動による影響を抑制しつつ、クーポン収入の積上げを中心としたリターンの享受を目指します。組入債券を厳選することで、デフォルト（債務不履行）リスクを抑制しながら、魅力的な利回り確保を目指します。

## 3 お知らせ

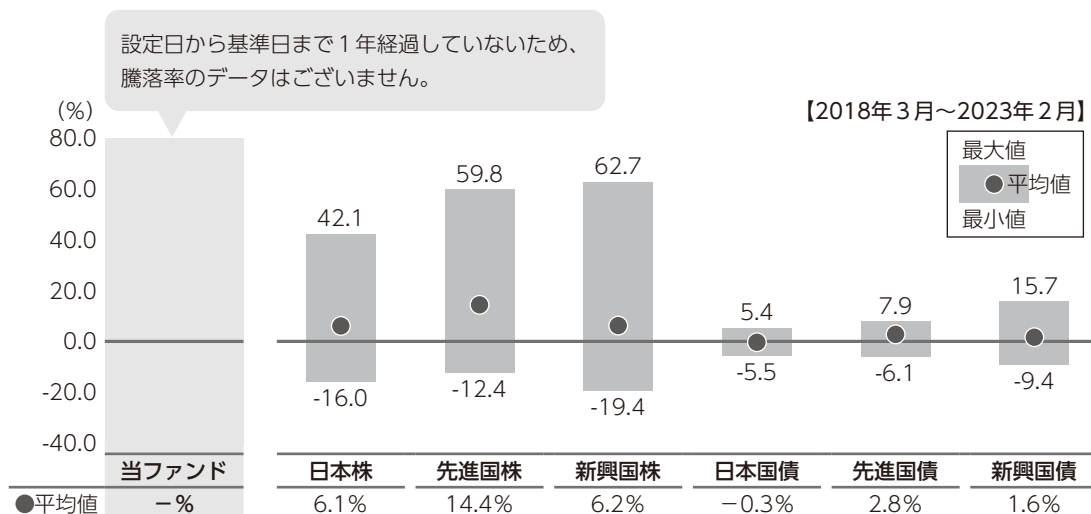
### 約款変更について

該当事項はございません。

## 4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2022年3月2日から2026年3月9日まで
運用方針	主として世界各国・地域の米ドル建ておよびユーロ建ての債券(投資適格未満を含む)に投資し、信託財産の着実な成長と安定的なインカム収入の確保を目指します。
主要投資対象	世界各国・地域の米ドル建ておよびユーロ建ての債券(投資適格未満を含む)
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主として世界各国・地域の米ドル建ておよびユーロ建ての債券(投資適格未満を含む)に投資します。</li> <li>■原則としてファンドの償還日前に満期を迎える債券に投資し、満期まで保有する「持ち切り運用」を行います。信託期間中に満期を迎えた場合には、ファンドの償還日前に満期を迎える別の債券への再投資を行う場合があります。</li> <li>■外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。</li> </ul>
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>■株式への投資は行いません。</li> <li>■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</li> </ul>
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年1回(原則として毎年3月8日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。</li> <li>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。</li> <li>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</li> </ul> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

## 5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

日本株	<b>TOPIX (配当込み)</b> 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	<b>MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	<b>MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	<b>NOMURA-BPI (国債)</b> 野村フィデュシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	<b>FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)</b> FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	<b>JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)</b> J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 6 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容(2023年3月8日)

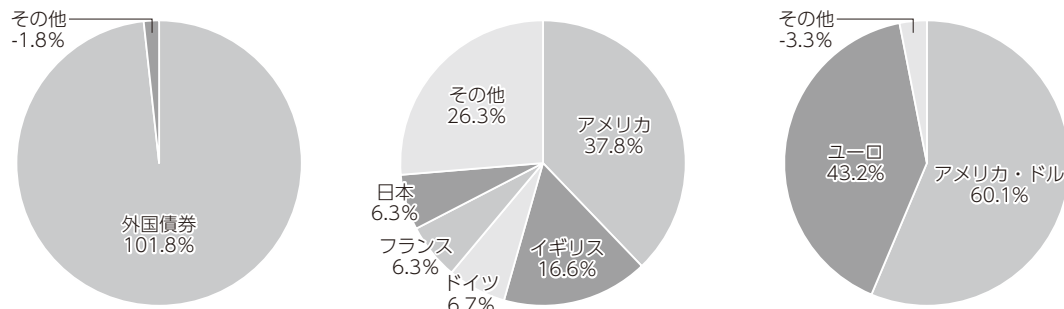
#### 組入上位銘柄

銘柄名			銘柄名		
	銘柄名	組入比率		銘柄名	組入比率
1	NISSAN MOTOR CO 3.522 09/17/25	3.5%	6	PHILIP MORRIS INTL INC 2.875 03/03/26	3.1%
2	BLACKSTONE PRIVATE CRE 4.7 03/24/25	3.4%	7	JAGUAR LAND ROVER AUTOMO 4.5 01/15/26	3.1%
3	DEUTSCHE BANK AG FL 11/19/25	3.3%	8	HSBC HOLDINGS PLC 4.25 08/18/25	3.0%
4	GSK CONSUMER HEALTHCARE 3.125 03/24/25	3.2%	9	BANCO SANTANDER SA 3.496 03/24/25	3.0%
5	BARCLAYS PLC FL 01/24/26	3.1%	10	MAGALLANES INC 3.638 03/15/25	3.0%
				全銘柄数	103銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

#### 資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※通貨別配分は為替ヘッジ前の比率です。外貨建資産に対して対円で為替ヘッジを行っています。

#### 純資産等

項目	第1期末 2023年3月8日
純資産総額	(円) 65,969,018,743
受益権総口数	(口) 66,313,599,986
1万口当たり基準価額	(円) 9,948

※当期における、追加設定元本額は11,327,349,326円、解約元本額は754,729,721円です。